

米国のバイオ燃料事情



空軍も再生可能ジェット燃料にシフト

軍と民間が共同歩調で

オバマ大統領の下で空軍が変わりました。

石炭を原料として FT 合成で製造する CTL ジェット燃料から、バイオマス为原料とする再生可能ジェット燃料に重点を移しています。

空軍は、2016 年までに、米国内で軍用機が使用する燃料の 50%を国産の石油代替燃料に置き換える計画で、一貫して CTL 燃料の導入を推進していました。

その空軍が本年 1 月に、CTL 製造プラントの建設計画を撤回したことを明らかにしました。

空軍は昨年 1 月に、モンタナ州にある Malmstrom 空軍基地内の土地を民間企業に提供して CTL 製造プラントを建設させる計画を公表し、同年 9 月には「建設計画の入札は既に終わっており、年内に落札者が発表される」(2008 年 9 月 30 日、Defense Environment Alert)と報道されていました。

そして追い討ちをかけるように先月、空軍の関係者が「提案を公募して 2 種類の水素化再生可能ジェット燃料油を選定し、それぞれ 16~20 万ガロンを試験用として購入する。この新燃料を航空隊が使用できるように 2013 年までに認証することを目指している」(2009 年 2 月 17 日、Defense Environment Alert)と語りました。

Bush 前政権のもとで

空軍は、2006 年から 2011 年までの計画で、FT 合成ジェット燃料の認証作業を進めていました。

2007 年に、戦略爆撃機 B-52H が FT 合成ジェット燃料を最大 50%まで混合した燃料を使用することを認証しています。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年 3 月 7 日)

その後、様々な軍用機で試験を実施し、2008 年 4 月に MIL 規格を改定して、JP-8 に FT 合成ジェット燃料を最大 50%まで混合できるようにしました。

JP-8 は、軍用機のほか地上設備および軍用車両でも使用されるためその試験も実施中です。

ASTM の規格も

米国材料試験協会 (ASTM) も、通常のジェット燃料に FT 合成ジェット燃料を最大 50%まで混合できるように新規格を検討中で、「この 6 月には承認されるだろう」(2009 年 1 月 5 日、Aviation Week & Space Technology)と報じられています。

FT 合成の原料には、石炭、天然ガスのほかバイオマスも含まれるとのこと。

CTL (Coal-to-Liquids)、GTL (Gas-to-Liquids) および BTL (Biomass-to-Liquids) の燃料を民間航空機が広く使用できるようになります。

ひとこと

CO2 対策として期待されている再生可能ジェット燃料ですが、その認証、規格制定の時期が気になります。

米空軍と ASTM は協力して早期実現を目指します。

2013 年が目安のようです。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニューズワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)